

令和2年度入学（一般入試 前期日程）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合 問題	1	水野 三智	みな、やっとの思いで坂をのぼる 水俣病患者相談のいま	ころから, 2018年より pp.234-239	ころから
	2	乙武 洋匡	自分を愛する力	講談社, 2013年より pp.43-48	講談社
	3	Nancy Sakamoto Reiko Naotsuka	“Conversational Ballgames”, in Polite Fictions: Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other	Kinseido, 1982より pp.81-83	Kinseido
	4 表1 表2	総務省情報通信政 策研究所	平成29年情報通信メディアの 利用時間と情報行動に関する 調査報告書 https://www.soumu.go.jp/main_content/000564530.pdf	総務省情報通 信政策研究所, 2018年より pp.16	総務省情報 通信政策研 究所

令和2年度 一般入試・前期

社会福祉学部

総合問題 (120分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、10ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 次の文章は、一般財団法人水俣病センター^{そうししや}相思社にて、職員として水俣病患者相談の窓口を担当している筆者の一説である。次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

以前に、父と娘とポーランドを旅行した。

一番の目的はアウシュヴィッツ国立博物館の見学だった。日本人ガイドで『アウシュヴィッツ国立博物館案内』(凱風社 2005)を書いた中谷剛さんに会いたいと思った。第二次世界大戦中に起こったユダヤ人虐殺(ホロコースト)はアウシュヴィッツでどのように語られているのか、次世代はどのように受け止めているのかを知りたかった。そしてなぜ日本人である中谷さんがそこで語るのか――。

アウシュヴィッツ強制収容所は、戦争が終わってから3年後に博物館として公開された。きっかけは、強制収容所で殺された人びとを^(ア)追悼すると共に教訓を残すため、生還者たちが国に働きかけたことだった。だから博物館の館長はホロコーストからの生還者で、ガイドも収容を体験した人が行なっていた。しかし時が経ち、現在330人のガイドの中で戦争を体験した人は1人もいない。体験をしていない彼らは自分たちの言葉で語っているのではなく、生還者が^(イ)遺した言葉を代弁しているのだという。

そんなアウシュヴィッツ博物館で、中谷剛さんは1997年に公式ガイドとして認定された。ガイドとして認められるまでの道のりは長く、そして博物館にとっても中谷さんの存在は衝撃だった。

「日本人が、当事者でもないのにアウシュヴィッツを案内するなんて」となかなか受け入れてもらえなかった。ガイドになってからも、ユダヤ人の女性が来て「よくそんなに冷静に案内ができるわね」と泣きながら言われたことがあったそうだ。

「でも私は経験していない。冷静に案内をするしかない」と中谷さんは言う。彼も初めてアウシュヴィッツを訪れた時、犠牲者からもぎ取られた大量の髪の毛や子どもの小さな靴を見て衝撃を受けた。しかし長年案内をするうちに、そこに感情がこもらなくなった。中谷さんは「それもまた可能性だ」と言う。

どうのことだろうか？

収容されていた人は、痛みが強すぎる分、周りや全体像が見えなくなることが多いという。実は戦争を体験していない人たちの方が、冷静に客観的に物事を捉えられるし話ができる。その冷静な説明が受け入れられて、見学者がどんどん増えている。今、戦争を経験していない者が語ることを期待されているのだという。^①

そして生還者たちも、「次の世代に任せられる」という思いを持ちつつあり、そのことで案内人自身も歴史の継承を次の世代に繋いでいけると自信を持ってきているそうだ。現在、アウシュヴィッツには加害国ドイツの案内人もいるという。

「生還者もやがていなくなるわけだから、そのことを前提に伝えるということを試行錯誤している」と中谷さんは話してくれた。

一方で、アウシュヴィッツのあるポーランドの市民が、いまだにその悲劇を語れない状況にあると聞いた。

ひとつの原因は、ユダヤ人、障害者、ロマ(通称ジプシー)とともに、ポーランド人も多くの被害にあってることなのだそう。彼らは被害者同士でどちらがよりひどい被害にあったかを競い合うという。自分の被害を認めてほしくて、他者であるユダヤ人の被害を素直に受け入れられない。

もうひとつは、ドイツなどの国とは違って、戦争責任を問われてこなかったという経緯がある。アウシュヴィッツで言えば、市民は被害者であり同時に加害者でもあった。そのため、ポーランド市民のなかに語る条件が整わなかったのだという。

しかし今ポーランドでは、国家としての戦争責任がある程度結論づけられ、次に市民がそのとき何をしていたのかが検証され始めているそう。侵略され、それに打ち克った一方で、占領軍のナチスに協力した人がある、ユダヤ人の排除に^(ウ)加担した市民がいるということが社会的なテーマになっている。

「あなたはあの時何をしたのか？」と問われた時、「ユダヤ人をナチスに突き出した」「異端者を告発した」と答える。

他者に問われて語り始めたとき、ひとりひとりが初めて戦争と向き合うことができるのではないだろうか。

ポーランドの人びとが多くを語れないという構図は、「水俣病」の現在とも重なって見えた。

② 水俣にも、水銀による健康被害、そこからの差別偏見の被害に加え、患者を含む市民同士が傷つけ合った対立の歴史がある。今なお続く対立もあり、多くの市民にとって、水俣で「水俣病」の話は依然としてタブーだ。

^(ウ) 他方、2004年の関西訴訟最高裁判決以降、^{しらぬい}不知火海周辺地域出身者の中から“自ら”水俣病であることを受け入れる人たちが現れ始めた。その数は、現在6万5000人にものぼっている。2008年の入社以来、相思社で患者相談を任されてきたおかげで、そうした人たちとの多くの出会いに恵まれた。そこで知ったのは、今なお自分の苦しみを水俣病の被害として表に出せずにいる人たちの存在だ。

当時不知火海周辺に住んで魚を多食した人たちは多かれ少なかれ水銀の影響を受けており、症状に違いはあっても皆水俣病を抱えていると、私は考えている。

だから、相思社までの長い坂をやつとの思いでのぼって相談にやってきた人たちに「あなたは水俣病ですよ」と話す。彼・彼女らは、たじろいだり焦ったり否定したり諦めたり認めたり、さまざまな反応を見せるが、そこから初めて語りが生まれる。

この本を書き終えた今、長い時間を経て複雑に^(ウ)絡み合った苦痛や葛藤を紐解いて、自分の苦しさを語り直すことで、水俣病事件を繰り返さない世の中へ一歩近づけるのではないかと思っている。

(永野三智『みな、やつとの思いで坂をのぼる 水俣病患者相談のいま』、ころから、pp.234-239, 2018年より、一部改変)

問 1 下線部(ア)～(オ)について、漢字の読み仮名をひらがなで書きなさい。

問 2 下線部①「戦争を経験していない者が語ること」の特徴を、戦争を体験した者との対比を示したうえで、本文に即して70字以上80字以内で説明しなさい。

問 3 下線部②『ポーランドの人びとが多くを語れないという構図は、「水俣病」の現在とも重なって見えた』とあるが、ポーランドの人びとの背景と水俣の人びとの背景をそれぞれ15字以上25字以内で抜き出しなさい。

問 4 筆者は、戦争や水俣病のような事件を繰り返さないためには、何が必要だと考えているか。本文の内容を理解し、解答が「〇〇こと」という形になるように本文から2字で抜き出しなさい。また、それによって何が可能となると考えているか。本文から5字で抜き出しなさい。

2 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

(乙武洋匡『自分を愛する力』, pp.43-48, 講談社, 2013年より, 一部改変)

問 1 下線部(ア)~(オ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 本文中の と に入る語句を, それぞれ本文中の表現を使って書きなさい。

問 3 「ほめる子育て」を実践できた理由として, 母親は, 下線部①「それは……あなたが障害者だったからかもしれない」と答えている。そう答えた背景について本文の内容に即して 200 字以上 240 字以内で説明しなさい。

問 4 下線部②「ケガの功名」の意味としてもっとも適切なものを下記から選び, 記号で答えなさい。

- ア. 欠点を直そうとしてかえって元のをだめにしてしまう
- イ. 今は悪くても, 待っていればよい機会が訪れる
- ウ. 何事も下手な人に限って熱心にやってみたがる
- エ. 失敗してその原因などを究明することで, 次の機会には成功するようになる
- オ. しくじったことや何気なくやったことが, かえってよい結果をうむ

問 5 本文中の と それぞれに適切な漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

3

次の英文を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 110 点)

A western-style conversation between two people is like a game of (ア). If I introduce a topic, a conversational ball, I expect you to hit it back. If you agree me, I don't expect you simply to agree and do nothing more. I expect you to add something — a reason for agreeing, another example, or an elaboration to carry the idea further. But I don't expect you always to agree. I am just as happy if you question me, or challenge me, or completely disagree me. Whether you agree or disagree, your response will return the ball to me.

And then it is my turn again. I don't serve a new ball from my original starting line. I hit your ball back again from where it has bounced. I carry your idea further, or answer your questions or objections, or challenge or question you. And so the ball goes back and forth, with each of us doing our best to give it a new twist, an original spin, or a powerful smash.

(中 略)

If there are more than two people in the conversation, then it is like doubles in (ア), or like volleyball. There's no waiting in line. Whoever is nearest and quickest hits the ball, and if you step back, someone else will hit it. No one stops the game to give you a turn. You're responsible for taking your own turn.

But whether it's two players or a group, everyone does his best to keep the ball going, and no one person has the ball for very long.

A Japanese-style conversation, however, is not at all like (ア) or volleyball. It's like (イ). You wait for your turn. And you always know your place in line. It depends on such things as whether you are older or younger, a close friend or a relative stranger to the previous speaker, in a senior or junior position, and so on.

When your turn comes, you step up to the starting line your (イ) ball, and carefully bowl it. Everyone else stands back and watches politely, murmuring encouragement. Everyone waits until the ball has reached the end of the alley, and watches to see if it knocks down all the pins, or only some of them, or none of them. There is a pause, while everyone registers your score.

Then, after everyone is sure that you have completely finished your turn, the next person in line steps up to the same starting line, with a different ball. He doesn't return your ball, and he does not begin from where your ball stopped. There is no back and forth at all. All the balls run parallel. And there is always a suitable pause between turns. There is no rush, no excitement, no scramble for the ball.

(Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka, "Conversational Ballgames", in *Polite Fictions: Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other*, pp.81-83, Kinseido, 1982 より, 一部改変)

注 scramble 奪い合う

問 1 文中の空欄(ア)(イ)に入る球技の名前を、以下から選び、それぞれ英語で書きなさい。

baseball / bowling / soccer / tennis

問 2 文中の空欄

1

 に入るもっとも適切な前置詞を1つ書きなさい。

問 3 下線部①を日本語に訳しなさい。

問 4 下線部②が会話の流れの中のどのような状況を例えた表現かを、本文の記述に基づいて、日本語で簡潔に書きなさい。

問 5 下線部③の代名詞 It が指示する名詞句を、本文から抜き出し、英語で書きなさい。

問 6 下線部④を日本語に訳しなさい。

問 7 下線部⑤と対比される状況を表す、6つの英単語から成る表現を、本文中から抜き出し、英語で書きなさい。

4 以下の表1および表2は総務省情報通信政策研究所が平成30年度に公表した「平成29年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」の資料をもとに作成したものである。平日の主な4つのメディアの利用(テレビ視聴, インターネット利用, 新聞閲読, ラジオ聴取)状況に関する調査結果である。全調査対象者は1,500人であり, 全員が2日間にわたって行われた調査に回答した。これらの表を読み取り, あとの問いに答えなさい。なお, 問2~問4については答えだけでなく, 答えに至るまでの過程が分かるよう, 計算式も書くこと。(配点110点)

表1 平日における主なメディアの平均利用時間^{注)} (単位:分)

年代	テレビ視聴	インターネット利用	新聞閲読	ラジオ聴取
全年代(N = 1,500)	159.4	100.4	10.2	10.6
10代(n = 139)	73.3	128.8	0.3	1.5
20代(n = 216)	91.8	161.4	1.4	2.0
30代(n = 262)	121.6	120.4	3.5	4.3
40代(n = 321)	150.3	108.3	6.3	12.0
50代(n = 258)	202.0	77.1	16.3	19.5
60代(n = 304)	252.9	38.1	25.9	17.3

注) 平均利用時間は, 以下のように求めている。まず, 調査日2日間の1日ごとに, 全調査対象者のメディアの利用時間の合計を調査対象者数で除して平均値を求めた。その上で, 2日間の平均をとったものである。

表2 平日における主なメディアの行為者率^{注)} (単位:%)

年代	テレビ視聴	インターネット利用	新聞閲読	ラジオ聴取
全年代(N = 1,500)	80.8	78.0	30.8	6.2
10代(n = 139)	60.4	88.5	3.6	1.4
20代(n = 216)	63.7	95.1	7.4	3.0
30代(n = 262)	76.5	90.6	16.6	2.3
40代(n = 321)	83.0	83.5	28.3	7.9
50代(n = 258)	91.7	76.6	48.1	9.1
60代(n = 304)	94.2	45.6	59.9	9.5

注) 行為者率とは, 調査日2日間の1日ごとに, メディアを利用した人の比率を求め, 2日間の平均をとったものである。

(総務省情報通信政策研究所『平成29年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書』, p.16, 2018年より, 一部改変)

問 1 平日における主なメディアの平均利用時間と行為者率の傾向を述べた下記の文章の空欄にもっとも適切な語句を記入しなさい。

テレビ視聴、インターネット利用、新聞閲読、ラジオ聴取のうち、とは年代が上がるとともに平均利用時間が長くなり、行為者率が高くなっている。すべての年代において、と比較して、は平均利用時間が長くなっている。

問 2 全調査対象者 1,500 名のうち、テレビ視聴を行った人数について、2 日間の 1 日当たりの平均人数を答えなさい。

問 3 インターネットを利用した調査対象者は 1 日当たり平均でどのくらいインターネットを利用したのか。1 日当たりの利用時間を求め、小数点第 2 位で四捨五入して小数点第 1 位まで答えなさい。

問 4 表 2 に結果を示した調査の翌年以降も、年に 1 度、同じ対象者に同様の調査を行うものとする。インターネットを利用する人の数は 1 年ごとに 2 日間の 1 日当たりの平均で 3 人ずつ増加していくものとする。テレビ視聴の行為者率は変化しないものとする。全調査対象者におけるテレビ視聴とインターネット利用の行為者率が等しくなるのは何年後か。なお、表 2 に結果を示した調査では、1 日目と 2 日目にインターネットを利用した人の人数は等しかったものとして計算すること。